

# 大連の郊外に遊ぶ

大連交通大学・国際文化交流学院 留学生 森野 昭

## 1 「開発区」の花見

大連駅から高速電車3号線で30分ほど行ったところに開発区があります（地図は4,5頁に表示）。  
駅を降りたところからすぐ近くに「砲台山」という小高い丘があり、その頂上が公園になっています。日中青年友好の桜が植えられていました。日本の中央部以西では桜が散っているようですが、この地では4月25日にも桜が咲いていました。花卉が濃い紅色なのでソメイヨシノとは異なる野生の品種なのでしょう。じつは、ソメイヨシノはこの北国では育たないのだそうです。

### 砲台山頂の大砲

清朝末期に外国の侵略から守るために砲台が作られたのが、この山の名になっている。そういえば、大連市の南山にも同じ目的の「砲台山」があった。  
（インターネットより 冬の写真）



ここ開発区は、中国の最初の経済技術開発区で、人口30万人を有し、外国企業のオフィスや工場があり、街の中心にはホテルやショッピングセンターが立ち並んでいます（日本人駐在者は2000人）。開発区で企業の顧問をしている仲條さんとは、昨年「長白山」へ旅行して以来親しくお付き合いしており、この日、留学生の得永さんと私が花見に招待されました。

### 桜の下で食事

仲條さんがビールとおにぎりを用意してくれた。  
日頃薄味の中国ビールを飲み慣れている私は、久しぶりでアサヒスーパードライを飲んで満足。やはり、日本のビールはウマ〜！

左より辛さん、仲條さん、得永さん（辛さんは元日本語教師仲條さんの教え子）





## 日本人のグループ？

向こうの花の下にシートを敷いて宴会をしている十数人がいた。中国でもサクラの下で宴会をするのか？ほどなく、子供二人が駆けてきて、少女が日本語を話した。それで、あのグループが日系人であることがわかった。そして、その少女は日本人学校で仲條さんの教え子だった。日本人の夫と中国人の妻の子である少女は、日本語と中国語を話していた。



「お母さんの日本語はどう？」ときくと、少女は「ママは私より日本語がへただよ」というので笑ってしまった。まだ小学校二年生でも流暢な日本語を話している。子供が言葉を覚えるのは早い！ 大連は戦前から日本人の多い街であり、今でも人口比でいえば日本人の比率が一番多いところだという。サクラの下で宴会をする日本的伝統がここにもあることを知って、懐かしかった。

大連は日中暖かくなっており、もう初夏の装いすら感じます。こうして、晩春を花見で締めくくることができたので、仲條さんに多謝。





## 2 金石灘

大連の奥座敷ともいえる、このリゾートへ一泊二日で「清明節」の日に仲間と行きました。清明節休暇は4月6日で（土日と合わせて3連休）、中国ではこの日墓参りの習慣があります。「唐風温泉国際会館」は、一泊二日で一人300元（6,000円）でした。温泉入浴料と部屋代が半々程度ですから、あまり高くはありません。日帰りで温泉を楽しむ客もいるようです。



広大なホテルの敷地内に温泉がある。受付ホールでチェックインし、男女別々の脱衣所で水着に着替えてから温泉に入る。中は男女混浴で、私がこれまで宜春・廬山・昆明の温泉でも経験した中国風温泉の入浴スタイルだ。温水プール、さらには十種類程度の各種湯舟があり、家族連れや男女友人同士が歓談しながら温泉を楽しむことができる。（これらの写真は下のHPより引用した。）

[http://japanese.dljlzy.com/Experiencein\\_Jinzhou/Coastal\\_Tourism\\_jp/4629.shtml](http://japanese.dljlzy.com/Experiencein_Jinzhou/Coastal_Tourism_jp/4629.shtml)

### 恐竜海岸

二日目に金石灘駅周辺にある「蠟人形館」と「地質博物館」を見学した。70歳以上の私は無料で入館できた。その後で、恐竜海岸へ行った。写真にあるように、半島の先端が、まるで、恐竜が海に顔をつっこんで水を飲んでいるように見えるから、こう名付けられたそう。この時期まだ海水浴客はいなかったが、黄海は汚染されいないだろうか？（了）





■ 地図 大連駅で高速電車に乗ると 30 分で「開発区駅」さらに 20 分でリゾート海岸「金石灘駅」に着く。まず、目指す場所を鳥瞰的地図から徐々に近づいて確認しよう。

### 東北アジア地図

大連は中国東北部の遼寧省にある。遼東半島の先端にある大連は、緯度的には、日本の仙台市と同一。



### 遼寧省

遼寧省の省都は瀋陽で、かつては奉天とよばれ、日露戦争ゆかりの地。現在は、遼陽や鞍山と共に工業都市。大連はさらに南側で遼東半島の先端にある。日露戦争の激戦地旅順は、大連より南でバスで約一時間の距離にある。



### 快速軌道交通 3号線

3号線が大連駅から郊外の開発区と金石灘（共に金州区）へ通じている。なお、大連は市内に地下鉄（1号線と2号線）が本年開業する。



## 大連市街

大連市は人口約600万人と言われる巨大都市だ。しかし、大連市とは下に示したように、大連市中央部(市街地)の他に3市と金州区・旅順区を含む広大な地域である。日本では、市の中にまた市があるようなことは考えられない。したがって、「大連市」(地級市)とは、日本の県(あるいは京都府・大阪府)に相当すると考えた方がいだろう。行政上の市の概念が日中間で違うのだ。



大連市はさらに格下の3市を含む――>



大連市は地級市、その下の庄河市などは県級市と呼ばれる。3号線を走る電車(日本や上海市の地下鉄と同じ)「県」とは地級市の下部行政組織で、日本の「郡」に相当。

【閑話】私は、少年時代北海道から京都市へ、現在は隣接都市天津市に住んでいる。日本国民であれば、国内の何処にでも住み平等な権利が与えられている。しかし、中国ではその自由が制限されている。たとえば、地方に住む農民は上海市で働いても(農民工)、いい職に就きにくいし、子供を公立の学校で就学させられないなど、上海市戸籍のある市民とは差別されているのだ。

では、農民や地方戸籍の人が大都市の市民権を得る方法は何か？

一つは、大都市の大学を卒業してそこで職を得て住むことであり、激しい受験戦争の遠因となっている。私の江西師範大での教え子Kさんは、上海の名門校上海外国語大学院に進学し、修士で卒業後、同大学の職員として働いているが、日本語教師にはなれないという。名門校では博士の資格がないと教師になれないそうだ。それなら、「地方の大学で教師になったら？」と勧めると、彼女は気がすすまないという。せつかく上海で職を得て上海市の市民権を得たのだから、将来結婚してもこの地で生活する方がいいようだ。

もう一つは、大連市のように市内の住宅を取得して市民権を得ることだ。が、大都市の住宅はかなりの高額のために現金収入の少ない農民などにとって、それは高嶺の花である。

中国ではこのような問題を抱えているが、思い切って国民に居住の自由を与えては、との考え方もある。しかし、大都市と地方の経済格差の大きい現状のまま自由を与えると、東南アジア諸国にあるように大都市周辺に大スラム街ができる恐れがあるのだ。

こう考えただけでも、日本は平和で自由で、それでいて自ずから秩序が保たれている好い国に思える。